

鳥取県の元気づくり施策の主な取組

平成29年12月3日

1 若者の転出超過対策の取組

人口減の大きな要因である若者の県外流出を防ぐことが必要であり、学生による学生のための情報発信、地域課題の解決に取り組める若手人材の呼び込みなどを推進していく。

〔現状〕

- 移住は高齢者を呼び寄せるだけとの批判があったが、実際に取り組むと若者の移住が多い。
 - ・平成28年度の移住状況 20～30代が多い。(30代以下が888世帯 70.4%)
- 移住した若者が起業するなどチャレンジしやすく、女性のストレスが少ない県として女性が活躍している。県外大学とも協定を締結して若者のI J Uターン就職等につながるよう推進中。
 - ・メディプラス研究所が行ったストレス度チェック 鳥取県 5位 (2017年) 昨年は1位
 - ・これまでの関西圏の大学の他、関東の大学とも協定を締結した。(9/13 中央大学、10/18 明治大学)
- 若者(15～24歳)の流出に歯止めがかかりつつあり今後も県外転出対策を強化
 - ・H28年3月+4月の合計 △992人が転出超過 → H29の同期では △954人 ⇒ 38人 (約4%改善)

〔参考〕

【移住者の年代 合計1,261世帯 (年代不明な143世帯を除く)】

20代以下	537世帯 (42.6%)	40代	138世帯 (10.9%)	60代	86世帯 (6.8%)
30代	351世帯 (27.8%)	50代	105世帯 (8.3%)	70代以上	44世帯 (3.5%)

【前居住地別 合計1,364世帯 (前居住地が不明な40世帯を除く)】

北海道・東北	34 (2.5%)	中部	81 (5.9%)	中国	356 (26.1%)	九州・沖縄	87 (6.4%)
関東	268 (19.6%)	近畿	482 (35.3%)	四国	32 (2.4%)	国外	24 (1.8%)

2 人材不足解消

県立ハローワークの全県展開、長期有償型インターンシップ等による学生の県内就職を促進していく。

〔現状〕

- 県では、平成29年7月3日に「鳥取県立ハローワーク」を米子・境港・東京・関西(大阪)に開設し、県の「産業施策」「雇用施策」「移住施策」等と連動し、求職者と企業との間できめ細やかなマッチングを行い、就職決定件数や相談件数が着実に増加。

【県立ハローワークの実績】 (H29.10時点)

- ・平成29年7月の開設以降、採用決定者数及び相談件数は、順調に増加。

〔採用決定者数〕 7月:22人 → 8月:62人 → 9月:84人 → 10月:90人

〔相談件数〕 7月:1,391件 → 8月:1,670件 → 9月:1,983件 → 10月:1,982件

- ・11月18日(土)にはプラント5境港店で「出張!ハローワーク」を初開催し、潜在的な就職者の掘り起しを実施。12月16日(土)はイオンモール日吉津で開催。今後もこのような取組を継続的に行っていく予定。
- ・11月以降、東京、大阪で開催される大型転職イベント(マイナビ、リクナビ、DODA)に計7回出展し、鳥取県へのI J Uターン就職を図る取組を行っていく予定。

- 雇用面では、「雇用創造1万人プロジェクト」を掲げて雇用を増やし、引き続いて「正規雇用1万人チャレンジ計画」を掲げて正規雇用化を進めてきた結果、直近の平成29年10月の有効求人倍率（季節調整値）は1.65倍で全国第12位（全国1.55倍）、正社員の有効求人倍率（原数値）は統計開始（H16）以降最高値の1.06倍（全国1.06倍）となり、大きく改善された一方で、企業の人手不足感が高まってきた。

【雇用の創出】

- ・ 「雇用創造1万人プロジェクト」（H23-26年度）では、雇用創出目標（10,000人）を大きく上回る12,630人（うち正規雇用9,478人）を達成
- ・ 「正規雇用1万人チャレンジ」（H27-30年度）では、正規雇用創出目標10,113人に対して、H27～28年度時点で5,874人を達成（達成率58.1%）

- 有効求人数（原数値）は35ヶ月連続で前年同月を上回り、有効求職者数（原数値）は54ヶ月連続で前年同月を下回っている。
 [人材が不足の主な職業] 商品販売、接客・給仕、飲食物調理、介護サービス、製品製造・加工処理など
 [雇用の場が不足の職業] 一般事務員、その他の運搬・清掃・包装業、機械組立業など

- また、企業等の働き方改革を一層後押しして、正規雇用への転換や多様な人材が働きやすい環境整備を促進していくとともに、企業の生産性の向上や新事業展開、国内外の需要の取り込みや海外需要の取り込みに対する支援などに重点的に取り組み、県民一人ひとりが豊かさを実感できる経済の好循環を実現していく。

[参考]

【有効求人倍率・正職員求人倍率の推移】

区分・月		29年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月				
鳥取県	有効求人倍率 (季節調整値)	1.59	1.59	1.59	1.65	1.65	1.68	1.65	全国	29年9月	10月	
	正職員求人倍率 (原数値)	0.88	0.90	0.94	1.02	1.03	1.06	1.06		1.52	1.55	
											1.03	1.06

(資料：「鳥取県内の雇用情勢について」、「労働市場月報」鳥取労働局)

【地区別の有効求人倍率（原数値）の推移】

区分・月		29年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
鳥取	有効求人倍率	1.27	1.29	1.35	1.42	1.50	1.54	1.54
	正社員求人倍率	0.69	0.71	0.77	0.82	0.84	0.86	0.83
倉吉	有効求人倍率	1.28	1.31	1.35	1.48	1.46	1.59	1.55
	正社員求人倍率	0.81	0.84	0.89	0.94	0.92	1.01	0.96
米子	有効求人倍率	1.60	1.64	1.67	1.82	1.86	1.95	1.99
	正社員求人倍率	1.12	1.15	1.17	1.29	1.29	1.32	1.36

3 働き方改革の推進

総合的な企業のサポート体制（ワンストップ相談、アウトリーチ支援）を構築していく。

〔現状〕

- 企業の労働力不足が課題となっている中、人材確保や離職防止の取組が必要。
- 県では、非正社員の正社員への転換支援、多様な働き方・活躍が可能な就業環境整備等に取り組んできた。
- 県として働き方改革を強力に支援するため、今年度新たに相談窓口を設置するとともに、託児機能付きサテライトオフィスを開設したところ。
 - 鳥取県社会保険労務士会に働き方改革支援相談窓口の設置（6月）
 - ⇒事業主からの相談に対して、働き方改革支援コンサルタント（社会保険労務士）を派遣し、働き方改革への取組を促進。
 - ⇒相談事業所：9社 働き方改革支援コンサルタント派遣回数：11回（H29.10月現在）
 - 〔相談内容〕時間外労働の削減：6件、有給休暇の取得：4件、定年延長の導入：2件、労災の防止：1件
 - ・働き方改革に何から手を付けたらいいかわからない企業が取組みを始め、助成金の申請へ結びついた事例もある。
 - 託児機能付きサテライトオフィスの開設（鳥取市6月、米子市10月）
 - ・県内企業に働き方改革の重要性が認識されてきており、企業のテレワークや短時間勤務制度導入の検討につながっている。

〔参考〕

- 正社員転換人数 1,252名（H27年～H29年10月末、国のキャリアアップ助成金分も含む）
- 男性の子育てしやすい企業支援奨励金 16件（H27） → 23件（H28）
- 男女共同参画推進企業数 664社（H29.11.10現在）
- イクボス宣言企業数 315社（H29.11.10現在）

4 観光戦略

県内外とのアクセス性が格段に向上するなか、大規模イベントも開催され、効果的に誘客に導くことができる好機的一年*と考え、山陰道を活用した関西圏・関西以東からの誘客の強化、観光列車運行や大規模イベント開催などと組み合わせた戦略的なプロモーションの実施していく。

*山陰道開通による更なるアクセス向上、空の駅、ソウル便5便化などのハードの整備、新たな観光列車の運行や大山開山1300年祭・山の日記念大会などのソフトの充実、山陰DC・JTＢ「日本の旬」キャンペーンなど

〔現状〕

- 観光入込客数 平成22年に初めて1千万人の大台に乗り、その後も1千万人の大台をキープしており、観光地として一定の認知、評価を得ている。

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
入込実人数（千人）	9,196	9,054	9,197	9,823	11,224	11,209	11,459	10,909	10,084	10,440	10,127
宿泊実人数（千人）	2,621	2,662	2,535	2,806	—	2,589	2,345	2,730	2,497	2,466	2,438
外国人宿泊者数（延べ）（人泊）	—	15,300	14,890	14,020	32,690	31,810	39,490	46,850	58,830	103,430	100,320
観光消費額全体（百万円）	—	—	—	—	54,754	40,395	58,426	82,871	79,288	68,546	64,164

（鳥取県 観光入込動態調査結果）

- ・鳥取県観光入込客数のうち県外からの入込は約6割（H28：645万人、H27：662万人、H26：659万人）
- ・平成28年の主要観光地の入込客数は9月までは好調だったが中部地震により打撃を受けた。
 - ※宿泊実人数は平成23年より国の宿泊旅行統計調査の数値に切り替え（切り替えに伴い平成22年は欠損）
 - ※観光消費額全体：平成22年以降調査項目に導入されたため、それ以前は「調査なし」（「観光庁」調査）

- 外国人観光客宿泊者数 平成27年に初めて10万人を突破し、平成28年には米子ソウル便のLCC化、米子香港便の就航などインフラ充実と認知度向上に伴い増加傾向。好調な搭乗率を受けて平成29年冬季には米子ソウル便の増便運航が予定されている。
- 観光消費額 H22：547億円 ⇒ H27：685億円まで拡大
- 「ウェルカニキャンペーン」によるイメージ・ブランド形成
 - ・平成26年開始の「鳥取県ウェルカニキャンペーン」は「冬場の松葉ガニ」、「9～6月に漁獲されるベニズワイガニ」「鳥取＝カニ」といったブランドイメージの定着を狙ったもの。（旅館関係者によると、キャンペーン開始後に単価の高い生ガニの注文数が伸びるなど、観光消費額向上にも寄与しているとの声もある。）
 - ユニークなカニ動画やTV番組などにより「鳥取と言えば蟹」のイメージ定着+キャンペーンの独創性が評価され、第26回日本プロモーション企画コンテスト・地域キャンペーン特別賞を受賞
- 鳥取県観光地に対する外部からの評価
 - ・平成28年5月、鳥取砂丘砂の美術館が、世界最大のロコミ旅行サイト「トリップアドバイザー」で平成25年以来4度目の「エクセレンス認証」受賞。（観光客目線で優れた観光施設であるという評価）
 - ・まんが王国の総務大臣表彰・県出身漫画家の作品を活かした地域づくりによる情報発信や観光誘客が評価
 - ・観光客の満足度は全国平均より高い。（公財日本交通公社「JTBF旅行実態調査」）

	大変満足	満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満	大変不満	満足度指数
鳥取県	39.4	39.0	16.0	3.7	1.9	0.0	0.0	6.10
京都府	31.9	45.8	17.4	4.3	0.6	0.0	0.0	6.04
全体	28.4	46.3	19.2	4.9	0.8	0.1	0.2	5.95

○観光資源を活かしたまちづくりに発展

観光は誘客による経済効果のみならず、地域の活性化、地元の良さの再認識やブランド化、まちづくりなど広い範囲で成果につながっており、これからも地方創生の礎になり得る。

- ・智頭：国指定重要文化財である石谷家住宅を中心にまち歩きや智頭宿雪まつりなどで「極上の田舎満喫」を観光客に提供
- ・倉吉（白壁土蔵群）：重要伝統的建造物群保存地区に選定され、土蔵と情緒ある古い建物を活用した「赤瓦」が16号館まで設置。ガイドと散策するまち歩きが人気。ポップカルチャーによるまちづくりも誘客に寄与
- ・境港（水木しげるロード）：シャッター通りだった商店街に妖怪のブロンズ像を設置したことで全国的に注目を集め、その後妖怪を活用したまちづくりに発展。2016.6に観光客3,000万人突破。リピーターも多く、地域発の取組が観光客を惹きつけた先進例

〔参考〕

○旅行先決定時に重視すること（日程と料金以外）（@nifty ネット調査）

- 1位 宿（旅館・ホテル）の良さ
 - 2位 温泉があること
 - 3位 食事
 - 4位 観光スポットがあること
 - 5位 交通の便がいい → 平成30年度に条件が整うことに
- } 鳥取県の魅力としてすでに整っている要素

- ・特に、鳥取県を訪れる観光客の約5割は自動車を利用しているため、山陰道全線が供用開始となり、関西圏・関西以東からの観光客を増やすことは県全体の観光入込みの底上げに直結する。
- ・主要観光地「鳥取砂丘」を訪れる観光客のうち、近畿、中部、四国は夏季の60～90%が自動車利用。年間平均でも観光客の約50%、夏季では約62%、冬季は33%が自家用車利用であり、鳥取県の観光地訪問手段として最も重要。
- ・こうした自動車利用傾向は本県を訪れる観光客に総じて共通すると推測でき、「県外からアクセスしやすく自動車で訪れやすい」ことは、観光入込みに大きく影響する。

（鳥取砂丘を訪れる観光客の自動車利用割合）

（単位：%）

区分	北海道		東北		関東		中部		近畿		中国		四国		九州	
	自家用車	レンタカー														
夏季	40.0	40.0	37.5	31.3	22.1	31.9	61.4	14.0	72.2	6.4	90.7	2.5	96.2	0.0	50.0	5.2
自動車利用割合	80.0		68.8		54.0		75.4		78.6		93.2		96.2		55.2	
冬季	0.0	50.0	25.0	50.0	16.5	27.3	43.1	7.8	31.4	3.2	56.7	2.8	20.6	2.9	39.4	6.1
自動車利用割合	50.0		75.0		43.8		50.9		34.6		59.5		23.5		45.5	

出典：H29.3 鳥取砂丘に関する観光客満足度調査